

研究種目：基盤研究（A）  
研究期間：2007～2010  
課題番号：19203030  
研究課題名（和文）社会的痛みの重層性に関する行動科学的検討

研究課題名（英文）Behavioral science on multilayered processes of social pain

研究代表者

浦 光博（URA MITSUHIRO）  
広島大学・大学院総合科学研究科・教授  
研究者番号：90231183

研究代表者の専門分野：社会心理学  
科研費の分科・細目：心理学・社会心理学  
キーワード：社会的痛み，排斥，拒絶，社会的格差，神経科学

## 1. 研究計画の概要

### 1) 社会的格差と社会的痛みとの関連の検討

社会的な階層意識が対人的なネットワークを仲介して人の適応にいかなる影響を及ぼすのかについて、2次データの分析によって検討する。

### 2) 犯罪加害者の社会的受容に関連する諸要因の検討

犯罪行為の背景要因として社会的な排斥の存在が指摘されていることから、刑を終えた加害者や冤罪被害者の社会的受容に関連する要因の検討を行う。

### 3) 心理社会的資源が社会的痛みの緩和に及ぼす影響

他者からの排斥が社会的痛みを生じさせる過程において、個人の持つ心理社会的資源が痛みの促進、緩和にどのように関わるのかを調査ならびに実験によって検討する。

### 4) 過去の被排斥／被受容経験が、社会心理的資源を介して痛みの評価と将来の対人関係に影響する一連の過程の詳細な検討

個人が過去の経験した被排斥／非受容経験が現在の心理社会的資源にどのように反映されるのか、そしてその諸資源が将来の対人的な適応にどのように影響するのかについて調査ならびに実験によって検討する。

### 5) 社会的痛みの生理的基盤の検討

社会的痛みの生起と抑制に関して、社会神経科学的なアプローチによって検討する。

## 2. 研究の進捗状況

研究計画の1)、2)についてはすでに終了している。3)についても個人特性としての資源として自尊心と社会的信頼に着目した検討はすでに終了しており、現在状況要因の影響の検討に向けて調査を開始し、また実験の実施を計画している。4)についても実験的な検討は終了し、現在縦断的なデザインでの調査を実施している。5)についてはfMRIを用いた2つの実験、NIRSを用いた1つの実験が終了しており、現在新たにNIRSを用いた実験計画を策定中である。

## 3. 現在までの達成度

①当初の計画以上に進展している。  
(理由)当初の計画はおおよそ4年前に立てられたものであり、その後本研究課題に関連する新しい知見が全世界で次々と報告されている。それらの新しい知見を踏まえて柔軟に研究計画を変更し着実に達成することで、当初の計画以上の成果が得られている。

## 4. 今後の研究の推進方策

今後も計画に沿って推進しながら、結果を踏まえて計画の柔軟な変更も視野に入れて調査と実験を進めてゆく。

## 5. 代表的な研究成果

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計5件)

①柳澤邦昭・西村太志・浦光博(2010). 低自尊心者は身近な人しか選べないのか—他者選択に特性自尊心及び相互作用の質が及ぼす影響—. 実験社会心理学研究,

50, 印刷中。(査読有り)

- ② Onoda, K., Okamoto, Y., Nakashima, K., Nittono, H., Yoshimura, S., Yamawaki, S., Yamaguchi, S., & Ura, M. (2010). Does low self-esteem enhance social pain? : The relationship between trait self-esteem and anterior cingulate cortex activation induced by ostracism. *Social Cognitive and Affective Neuroscience*, in press. (査読有り)
- ③ 中島健一郎・磯部智加衣・長谷川孝治・浦光博 (2010). 文化的自己観とストレスフルイベントの経験頻度が個人の集団表象に及ぼす影響, *実験社会心理学研究*, 49, 122-131. (査読有り)
- ④ Onoda, K., Okamoto, Y., Nakashima, K., Nittono, H., Ura, M., & Yamawaki, S. (2009). Decreased ventral anterior cingulate cortex activity is associated with reduced social pain during emotional support. *Social Neuroscience*, 4, 1-12. (査読有り)
- ⑤ 相馬敏彦・浦光博 (2009). 親密な関係における特別観が当事者たちの協調的・非協調的志向性に及ぼす影響, *実験社会心理学研究*, 49, 1-16. (査読有り)

[学会発表] (計 14 件)

- ① Nakashima, K. Yanagisawa, K., & Ura, M. (2010). Do people with high self-esteem always boost their independence through ego threat? Asymmetry effect of task-relevant and interpersonal threat on cultural self-construal. The Eleventh Annual Meeting of the Society for Personality and Social Psychology. (2010 年 1 月 30 日, Las Vegas)
- ② Yanagisawa, K., Isobe, C., & Ura, M. (2010). What psychosocial resources can buffer against negative effects of implicit and explicit social exclusion? The 11th annual meeting of the society for personality and social psychology. (2010 年 1 月 30 日, Las Vegas)
- ③ 小野田慶一・岡本泰昌・中島健一郎・入野宏・吉村晋平・山脇成人・山口修平・浦光博 (2009) 特性自尊心の高低が排斥による社会的痛みと前帯状回の活動に及ぼす影響. 日本臨床神経生理学会第 39 回大会. (2009 年 11 月 20 日, 北九州国際会議場)
- ④ Fukakusa, M. & Ura, M. (2008). How does the belief in a just world influence attitudes regarding people accused of crimes? The 29th International Congress of Psychology. (2008 年 7 月 22 日, Berlin)
- ⑤ Onoda, K., Ura, M., Nittono, H.,

Nakashima, K. Mishima, S., Okamoto, Y. & Yamawaki, S. (2008). Emotional support reduces social pain and anterior cingulate cortex activation during ostracism. The 29th International Congress of Psychology. (2008 年 7 月 22 日, Berlin)

[図書] (計 2 件)

- ① 浦光博 (2010). 自己概念と自尊心. 浦光博・北村英哉(編著) 展望 現代の社会心理学 (1) 社会の中の個人, 印刷中.
- ② 浦光博 (2009). 排斥と受容の行動科学ー社会と心が作り出す孤立ーサイエンス社, 288 頁.